

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドハート桃園		
○保護者評価実施期間	2024年 1月 1日		～ 2024年 12月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	2024年 1月 1日		～ 2024年 12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	戸外活動が充実している	<ul style="list-style-type: none"> 公共の場でのイベントには積極的に参加している。 毎日の公園活動では集団活動が行える支援方法を考えている 公園での地域の児童との関わりには積極的に取り組める環境作りを行っている。 児童一人一人が誰かと関われる、お子様同士が相手に合わせた支援活動を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> お友達との関わりが難しいお子様に対してどのように関われるかを考えた支援計画を立てている。 指導員も一緒に遊び、楽しむ支援を行う事で、見守り支援(見ているだけ)を軽減できるスキルを学んでいきたい。
2	静、動の環境Mの切り替えが出来ている	<ul style="list-style-type: none"> 静かな場所として「学習室」遊ぶ場所として「プレイルーム」と環境を知らせながら切り替えを行っている お子様たちにもその意味を促して行っている事で、意識して取り組みが行えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 必ずしも強制はしていないので、今後も職員間でその日の様子を話し合い、情報共有して支援するお湯にしていきたい。
3	考える力を身に付けられる	<ul style="list-style-type: none"> 職員の年齢層が高い事が特色なので、そこら辺のある道具で遊ぶ方法を考えて取り組む事が出来ている。(新聞紙活用、昔遊び等) お子様同士で関わり合っていく取り組みがよくみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> お子様たち自身が興味をもち、取り組めるように職員間でアイデアを提供しながらプログラムを考えていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会が少ない 保護者同士、兄弟同士との交流する機会が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度から保護者会を再開するも参加される保護者様が少なかった 	<ul style="list-style-type: none"> 利用されているお子様は高学年も多いので、保護者様が興味をもって参加出来る講座等機会を設けて、興味をもって頂ける様に工夫を行いたい。
2	<ul style="list-style-type: none"> 支援のスペースが十分に確保できていない 	<ul style="list-style-type: none"> クールダウンが行える部屋が確保しづらい 	<ul style="list-style-type: none"> クールダウンや体調不良のお子様の対応について、職員お部屋で対応するなど他のお子様と接触がない環境を継続していく。
3	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の入口が暗く入りづらい印象がある 	<ul style="list-style-type: none"> 入口が駐車場から見えにくく、日が当たらない場所にある。始めてくる保護者様や、お子様には輪k利づ宅、暗いので入りづらい事がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境整備をしながら明るく解りやすい環境を考えていく。

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	チャイルドハート桃園				公表日	
					2025年 2月 15日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	1	7	学習室（学習、作業部屋）、プレールーム（活動部屋）と分かれて活動しやすいと思う クールダウンが必要な児童への対応は、決められた部屋がないが、指導員同士連携しあい、事務所等その場に応じて他対応する。他の児童の対応には他の指導員が遊びに誘導し、距離をおいている。クールダウンが必要とされる児童がクールダウン出来るよう配慮している。	クールダウン目的の部屋がなく完全な隔離が出来てない。 児童が利用する部屋数が少なく（学習室、プレールーム）成長する事に室内での活動が狭く感じる。 2階建ての2階を利用しているが1階は入口で防犯カメラの設置は行なえているが、見守りでの職員を各部屋に配置し実施が行えられると配置に努めたい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	4	利用人数への基準配置は適切である。 集団活動を主にした支援を行なっているので、個別対応も出来るお湯にしているが、成長に合わせて複数の指導員でグループになって関われ、死角化による環境等工夫している。	利用者の特性に応じて個別対応も出来るように配置しているが、曜日によっては指導員の勤務数が個別対応できる環境が難しくなる時がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	3	安全面を考慮し、レイアウトや防御カバー、視覚的にはっきりわかる目印などの設置を行っている。（5S実施） 2階建ての為階段を使用する事で体に合わせた手すりを設置している。	わかりやすく設置されている道具が、お子様が剥がす事があるので何度も繰り返し作業を行ってしまつので今後改善方法を検討している。 靴を履く際には一斉に集まると危険の為常に順場に呼ぶなど配慮に努めている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	4	使用した道具の消毒、部屋の掃除や消毒、定期的な部屋の換気を周知している。実施できている。 活動に応じたセッティングも行っている。	部屋にはドアは設置されていないが、死角化な箇所があるので部屋移動の際には指導員が見守れる配置を心かけている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	1	お子様の体調や状況に合わせて部屋を確保し対応している。	個別部屋は設けられてない。状況の応じての対応や、突発的な時には指導員が声掛けし、誘導しながら他のお子様に移動して頂くなど対策行っている状況である。指導員が上手に説明し、状況を伝えてくれている。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	2	振り返りに関しては話し合いを設けている。	勤務時間が違う非常勤務の方への対応が不十分な時もある。 学びを要した面がある
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	保護者様の意向を真摯に受け止め業務改善に努めている	職員全体で周知し、業務改善に繋げていけるよう努める。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	毎月職員会議を行い意見交換をしている。 朝礼、終礼で出た課題について出来る限り全員意見を言うて行くように促している。 個別で意見を聞く機会も設けている。	1人1人の価値観や受け止め方が違う時もあるので、その時はどちら意見深場に応じて行えるよう工夫できるよう考えてもらっている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	1	本部評価は受けている。 都度指導があった事については前向きに改善を行っている	今後も職員に周知していきたい。 知らなかったという指導員がいたので周知に努める
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	本部研修や法人内での支援研修等職員全員で参加している。 興味のある外部研修は各自参加していることもある。	外部研修は児発管が主に受講している。今後は研修は必要に応じて他の指導員の参加を計画したい。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	事業所の特色を記した物を作成している	公表はしていないが出来上がっているのでホームページに掲載予定である
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	0	お子様や保護者様のニーズはもちろんの事、指導員の意見もとりにれた計画を作成している。	全職員が情報共有できるよう話し合いを続けていきたい。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	朝礼で指導員が各担当児童の計画に沿った支援目標を伝えあい、終礼でその後の状況を伝えあっている。計画に繋げている。	全職員が共通理解ができるよう今後も話し合いを続けていきたい。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	計画に沿って、毎日の記録、毎月の支援会議、カンファレンスで共有し、朝礼、終礼で目標を決め支援を行なっている。	目標を持って支援がお行えるようになってきているが、個別活動目線になっている事もあるので、集団活動の関わりにも目線をむせていけるよう努めていきたい

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0	日々、計画書に沿った記録を行っている。 朝礼時には職員間で日々の行動を観察した上での成長できる目標に取り組む行なえるように話し合っている。	記録、口頭で伝えている事でも説明でイメージがわかず理解に難しいこともあったので今後は共有できる方法の改善に努めていきたい。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	関係機関の目標、お子様自信を感じる気持ち、保護者様の意向を指導員と支援会議をしたうえでガイドラインに沿った計画書で作成している。	計画は作成しているが、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」については不十分さを感じている。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	季節、天気、お子様の成長に沿って活動内容を工夫し、いろいろな事が挑戦できるようにプログラムを職員間で検討しながら立案している。	社会性や自立心の育成が図れる体験的な活動を多く取り入れていきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	季節を感じられる行事や、感覚統合遊び、集団活動、運動療育、ライフスキルトレーニングを取り入れています。	プログラムの目的、目標を明確にし、どんな力を育てていきたいのか職員間で話し合い、関わり方はどうすればいいか共通理解が出来るように努めていきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	個々活動・集団活動により、個々に合った活動を提供している	個別活動と集団活動を時間配分をし、日々組み合わせをしている。個別活動への職員の関わり方を計画的に全職員で共有する必要がある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	朝礼で、その日のリーダー職員を中心に役割分担を行う。各職員は担当児童への支援方法を伝えチームで連携できる体制を行なっている	児童の状況に合わせての臨機応変が難しい面がある。職員同士での連携を行って支援に努めていきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	0	全員参加がベースだが、参加できない職員に対して情報共有が出来るよう、日誌や記録を確認するよう心がけている。	全職員が同じスタンスで取り組めるようグループLINEなど活用して意思統一を図れるよう努めていきたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	日々支援記録は残し、支援内容を検討、改善を行っている	情報共有を徹底していきたい
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	全職員で意見を出し合い、お子様の状況、保護者様のニーズを元に計画の継続や見直しなどの検討を行っている	計画書の期間の中でお子様や、保護者様の状況も踏まえたうえで見直しを行うこともある。保護者様に説明理解してもらったうえで見直しに努めていきたい。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8	0	基本活動を中心に日々の活動内容をバランスよく行っているが毎回指導員同士で協議し確認しながら支援を行なっている	今後は更に計画書に沿った支援が行えるよう職員全員で努めていきたい。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	0	「どうしたいの?」「私はどう手伝えばいいの?」等わかりやすい言葉での声掛けや視覚的有志のお子様に対しては環境に応じた写真カードで知らせる等の支援を行っている。	今後ももっと「声が出しやすい支援」を目標に工夫し努めていきたい。 必要に応じた準備が整っていない時もあるので役割分担して取り組んでいきたい。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	2	開催場所によるが、事業所内で開催の場合は児発管と対象児童に精通し、理解の深い指導員が参加が行っている。	開催時間が支援時間と重なる事が多いため主に児発管の参加になってしまう。今後は調整をしながら有資格者の参加に努めていきたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	4	関わりがある社会資源とは保護者を通して連携が行えている所もある。	医療、保健機関との関わりがないので今後は連携が取れる体制を整えていきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	0	下校時に担当の先生との情報交換を必ず行い受け入れをしている。こちらからは独自のシートに様子を記載した物をお渡しし情報の交換を行っている。	学校との情報共有は送迎時、担当者会議などを含め、また保護者様を通して行うよう努めている
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	1	移行前には必ず情報共有や会議に参加している	各関係機関と連絡を取り、個々の情報の教諭に努め、保護者様や児童が安心して移行できる体制を整えてきた。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0	8	移行する年齢に達した利用者がいない	今後情報共有が出来る体制作りにも努めたい
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	6	専門の医師の方の研修の案内があり、参加している。	機会があれば研修に参加しスキルを上げるよう努めていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	3	地域の他の子どもさんとの活動は、公園活動で交流する事が出来ている。	小集団で更に社会性を学ぶために計画的に取り組んでいきたい。
33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	1	7	管理者、児発管は主に研修に参加している 昨年より同施設での研修を開催され意見交換が出来る機会があった。	他事業所との意見交換や情報交換、事例に基づいた研修や交流に努めていきたい。	

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	ご利用時に連絡帳（ハートリンク送信）や送迎時に、きめ細やかな情報交換を行っている。	保護者様とごちらの支援のニーズの相違を感じる時がある（預かりのみを考えている様子を感じる時がある）
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	6	保護者会や、個別に対応する事がある。内部研修で機会を設け参加して頂く事があった。	外部講師を呼ぶなど保護者様への研修の機会を設けていきたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	契約の際に保護者様の理解が得られる様にわかりやすく、きちんと説明を行なっている。	特に重要な所は具体的に丁寧に説明をしている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	都度送迎時や、お子様が成長した様子などを報告成長を共有している。モニタリングの際に意向をお聞きし、一緒に計画を立てている、お子様の様子もお伝えしたうえで真摯に話し合える体制作りに努めている。	保護者様からの依頼もあり、お子様の気持ちを確認し代弁する機会がある。全職員が対応できるよう体制を整えたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	0	モニタリングの際に保護者様からの意向も踏まえた内容で作成、説明したうえで同意を得ている。	説明の際に指導員も参加し、利用時の様子を伝え情報共有している。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	ご相談はすべて真摯に対応している。相談事はすぐに対応しすこでも不安が軽減出来るよう助言するなど体制を取っている。	保護者様からの悩みやご相談は真摯に受け止め、誠意をもって相談に応じている。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	8	0	今年より保護者会を再開した。保護者同士の交流、情報交換に努めた。	お仕事を持っている保護者様が多くなったので参加が難しい面も見られた。そのため早めのお知らせを行う事で予定が終つとご要望もあったので今後は早めのお知らせ、準備を行う事を心掛けていく。兄弟も参加され一緒に楽しめる内容を工夫している。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	報告、連絡、相談体制づくりを確立し、迅速かつ適切に対応できるようにしている。	苦情に対しては迅速かつ丁寧な対応を心掛けている。全職員で協議したうえで共通理解を行い、申立者に対しては丁寧に説明し、対応策も報告している。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0	毎月独自の通信（紙媒体式）や、インスタ配信等作成し配布を行っている。事前の活動はLINEなどで事前のスケジュールをお知らせし保護者、児童と共有している。	長期休暇の活動が多く、配信し仕切れない面がある。都度送迎時には当日の様子を知らせ家族間でお話出来るよう促している。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	鍵付の書庫に保管している	日々注意をしながら業務にあたっている
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	毎月行う支援会議などで保護者との情報伝達の仕方や、内容について確認しながら業務にあたるようにしている。	児童には意思疎通のできる環境の配慮、保護者には日々情報伝達の為には配慮や工夫をする努力をしている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	0	地域住民を招待する等の活動は行なえてないが、毎日活動で行く公園で、散歩されている方にあいさつを行う事はある。地域行事の収集はお行い、参加する事もある。	交流としての今後は考えていきたい。
非常時等の	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	各マニュアルは設置し職員間でいつでも確認できるようにしている。避難訓練、感染対策訓練、緊急時対応等は時間を設け保護者と定期的に緊急先の確認、児童を含め職員間でも訓練を実施している。	マニュアルを定期的に読み合わせし、周知できる環境を検討している。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	計画の策定や研修は受講している。災害時の職員の対応の研修を行っている。	BCPのマニュアルを元に職員間で体制作りを検討している。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0	既往歴は契約時に確認が出来ている、服薬は都度保護者様より連絡を頂き処方箋も見せて頂き等職員間でも共有が出来ている。予防接種については都度保護者様より情報を頂き共有し体調に合わせて支援内容も考慮し対応している。	今後見えるかにしていくためアセスメント項目に追加を検討。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0	契約時保護者様と確認を行っている。家族支援会議等で都度保護者様に経過を確認している。職員間でも共有でき、安全な対応を行っている。	「うっかり」「忘れていた」という事故防止の為見える化を検討。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	定期的に研修を受けたうえで、想定しながらの訓練を実施している。訓練の際には事前に保護者様にお知らせし、児童の方にも事前のお知らせで当日取り組める環境作りを行っている。	毎月の訓練を踏まえ、緊急事態について予防的な観点から具体策を講じるよう体制作りを検討している。

対応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0	計画書を作成し、訓練を毎月行っている。 研修も受けて周知出来ている。 避難場所、保護者様との連絡先の確認は確認をしている。	訓練では参加できない児童がいる。解りやすい動画などを利用し、参加出来る環境作って行きたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	ヒヤリハットは少しの事でも毎日終礼時に聞き取りを行い様式にこだわらずすぐに記入できる環境を作っており、周知出来ている。 話した事を忘れないように都度朝礼時にも確認を行う環境づくりをしている。	お休みの職員に周知できてない事がある。 常に情報は確認できるように視覚化にし再発防止に努めたい。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	チャイルド本部の研修を定期的に受けている。 委員会も設けているので、委員会で話し合ったことを事業所内で周知し共有している。 情報番組などで聞いた情報（事例）を朝礼で話、周知している。	定期的に事例に基づき自分の行動、関わり方を検討し合えるよう常に意識した環境を伝えていきたい。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	0	支援計画書に記載されており、保護者様に説明し了解を得ている。 委員会も設けており定期的に確認、周知、振り返りが行えている。	今後も身体拘束の環境がない支援を行ない、職員間での意識向上を図るため研修を進めていく。計画sh所を作成し